

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2006年9月)

発表日2006年11月13日(月)

～配当金の受取増加もあり、所得収支は堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
TEL : 03-5221-4525

		原数値 経常収支				季調値 経常収支			
		貿易・サービス収支		所得収支		貿易・サービス収支		所得収支	
		前年比	前年比	前年比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比
05	1-3月期	▲ 8.1	▲ 23.0	▲ 21.4	14.5	0.0	4.9	2.8	▲ 1.6
	4-6月期	▲ 9.8	▲ 30.4	▲ 29.7	18.4	▲ 5.4	▲ 30.3	▲ 24.7	14.3
	7-9月期	▲ 1.5	▲ 35.2	▲ 31.7	28.5	4.4	▲ 2.8	▲ 6.1	4.9
	10-12月期	13.6	▲ 8.2	▲ 18.6	30.1	20.8	30.7	10.0	12.7
06	1-3月期	18.5	▲ 13.5	▲ 28.2	42.0	▲ 4.1	▲ 9.4	▲ 6.1	7.2
	4-6月期	▲ 3.0	▲ 24.5	▲ 17.4	15.8	▲ 15.3	▲ 28.1	▲ 11.7	▲ 7.7
	7-9月期	11.8	7.1	▲ 0.1	17.5	9.1	12.7	1.2	5.0
05	9月	6.1	▲ 19.3	▲ 20.8	33.7	5.1	▲ 4.5	▲ 0.5	7.1
	10月	7.3	▲ 20.8	▲ 29.7	45.7	12.8	33.5	1.0	5.9
	11月	17.3	16.7	▲ 0.8	11.4	▲ 9.2	▲ 10.9	11.0	▲ 11.1
	12月	16.1	▲ 9.9	▲ 16.8	39.6	27.6	16.4	2.1	29.1
06	1月	2.5	赤字	赤字	33.7	▲ 18.5	▲ 13.9	▲ 20.8	▲ 10.6
	2月	10.8	▲ 7.0	▲ 11.8	32.9	6.6	8.3	28.8	3.6
	3月	34.3	6.7	▲ 6.8	58.0	▲ 1.7	▲ 18.0	▲ 14.3	9.6
	4月	▲ 17.7	▲ 59.4	▲ 32.8	12.7	▲ 30.5	▲ 64.2	▲ 36.0	▲ 15.6
	5月	16.8	29.5	11.1	15.8	32.7	259.5	86.7	▲ 10.5
	6月	▲ 6.4	▲ 13.3	▲ 12.2	23.7	▲ 2.4	▲ 40.8	▲ 26.4	29.5
	7月	7.1	▲ 8.4	▲ 8.5	23.5	10.7	54.6	25.6	▲ 8.7
	8月	22.2	396.9	36.0	11.1	▲ 6.3	▲ 4.2	▲ 3.8	▲ 7.7
	9月	9.4	4.3	0.2	19.4	▲ 12.2	▲ 63.9	▲ 45.5	19.7

(出所)財務省「国際収支状況」

○ 9月の経常黒字額は前年比+9.4%と増加

9月の経常黒字額は前年比+9.4%の20,249億円(原数値)と3ヵ月連続で前年を上回り、ほぼ事前の市場コンセンサス(20,080億円、レンジ13,800~22,300億円)通りの結果となった。内訳をみると、貿易収支、所得収支の黒字幅が拡大した他、サービス収支の赤字幅が縮小した。

○ 所得収支は配当金受取が増加し、黒字幅が拡大

貿易黒字額は前年比+0.2%となった。輸出金額が前年比+14.8%(前月同+17.3%)と伸びが鈍化し、原油価格の高騰によって輸入金額が前年比+18.4%(前月同+16.4%)と引き続き大幅増となっていることから貿易黒字額の拡大ペースは前月から鈍化したが、前年を小幅上回った。

サービス収支は、前年比で13.7%の赤字幅縮小となった。原油価格の上昇による運賃値上げ等の影響から輸送収支が赤字となっているものの、外国人旅行者の訪日を推進していることもあって旅行収支の赤字幅が縮小傾向となっている。

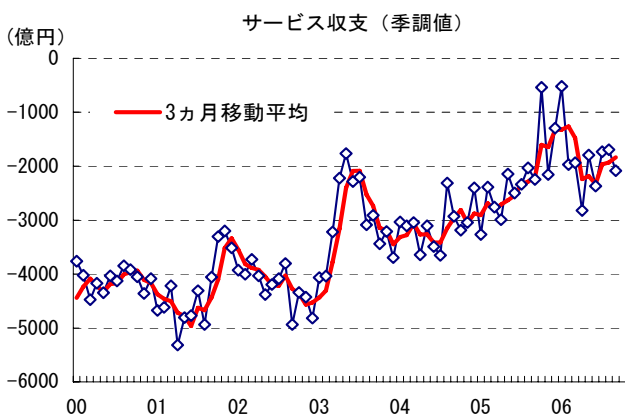
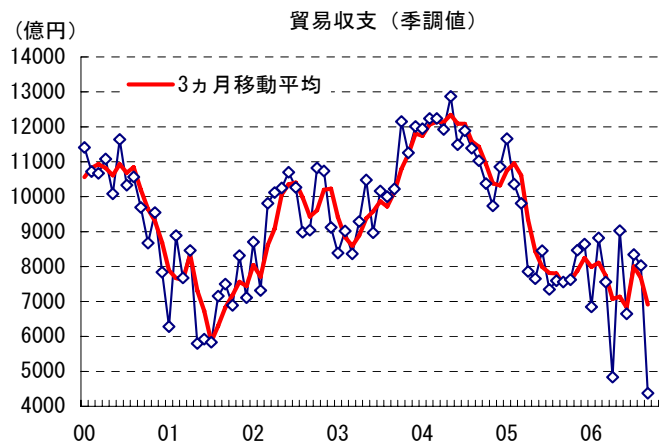
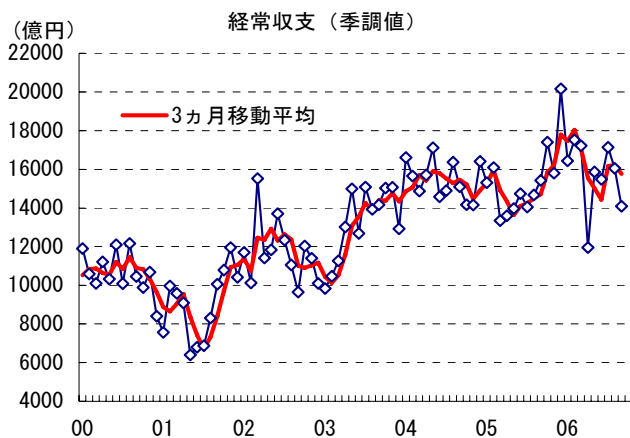
所得収支は、前年比+19.4%と黒字幅が拡大した。所得収支は、①証券投資収益が対外資産の累増を背景とした外国債券の受取利子の増大などによって増加基調を辿っていることに加え、②直接投資収益についても海外子会社の業績が好調であることを反映して堅調に推移している。9月は決算時期であるが、海外企業

の業績が好調だったことから配当金関係の所得受取が増加し、所得収支の黒字額を押し上げた。

○先行きも経常収支は高水準での推移が続く

対外資産の増加などから所得収支の黒字額の拡大が続く可能性が高いこと、サービス収支も赤字額の縮小傾向が続くとみられる一方、経常収支の押し下げ要因となっていた貿易収支は2ヵ月連続で前年を上回った。

輸入金額増加の主因となっている原油価格は、9月は1バレル72.02ドル（輸入C I F価格）と前月からさらに上昇したが、前年対比で見れば9月は+21.3%と8月の同+29.3%から低下している。WT I 価格が足元まで落ち着いていることを勘案すると、原油価格の輸入金額への押し上げ寄与は徐々に剥落していく公算が大きいと考えられる。一方、輸出金額についても米国経済の減速を背景に、増加ペースは鈍化してくる見込みだ。輸出の先行指標であるOECD景気先行指数は9月に伸びが拡大しており、先行き輸出が失速することは避けられるものの、当面は減速方向で推移すると考えられる。輸出の拡大による貿易黒字額の増加は当面見込みにくいのが、原油価格の上昇が一服したことで貿易黒字額の減少傾向に歯止めがかかる形となろう。経常収支全体では、貿易収支に下げ止まりの兆しが見えてきたことに加え、所得収支の黒字拡大とサービス収支の赤字縮小が下支えする形で高水準での推移が続くとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。